

奨励賞

各種学校+保育所／神奈川県川崎市

川崎朝鮮初級学校

構造	鉄骨造
階数	地上2階
敷地面積	3,678.29㎡
建築面積	535.70㎡
延べ面積	785.97㎡
竣工年	令和6年



設計担当者 笠井太雅

カサイタイガ+チョンエヒャン建築事務所/
KACH、東京建築士会

共同設計者

鄭 愛香

カサイタイガ+
チョンエヒャン建築事務所/KACH

三原悠子

Graph Studio



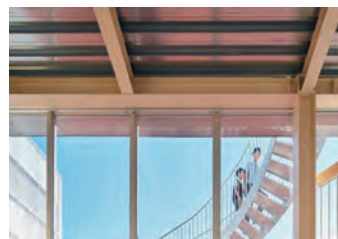
子どもたちの活動が教室から廊下を介してテラスへと広がる。テラスからまた外へ、朝鮮学校の活動が地域社会へと染み渡ってゆく



1階、幅3mの廊下は各諸室の延長として使われ、吹き抜けから北側に光を届ける環境的な役割も担う。廊下だけの機能にとらわれず、先生や子どもたちにとって高い操作性を実現している



正門と副門を開放することで、校舎前の挨拶通りは通り抜け可能な街路にもなる



右上) 雛段状のテラスには遊具を置かれたり、東屋にネットを掛けてヘチマを育てたりと、子どもたちが学び遊ぶ姿が校舎全体で繰り広げられる

中上) 1階、2階、テラス、どの場所においても廊下と吹き抜けを介して、子どもたちの笑い声や活動を感じ取ることができる

右下) 5.2m×5.6mの小さな教室は2室を1室として多用途に使われ、廊下も一体として使用することができる。廊下の天井高を低く、教室を高くした断面的な空間の広がり、心地の良い体感を与えている

中下) 子どもたちにたくさんの経験と楽しさを与える、遊びの場でもあり学びの場でもあるテラス。1階から屋上のテラスまで一繋ぎの曲がり階段で緩やかに繋がる

左) 1階多目的教室(南)を見る。教室の活動とテラスの活動が交錯する



選評

川崎臨海部の密集した住宅地の中に小さな校舎が建っている。これほど簡素で豊かな学校建築を見たことがない。近年の学校は単調な兵舎型のプランからの脱却を目指し、オープンスペースなどさまざまな場によって多様な教育空間を形成しているが、この学校は決して広くない校地の一部を売却し建設資金に充当するという条件下で、中廊下型に必要な最小限の諸室を配置するという極限まで削ぎ落とされた設計となっている。H型鋼の架構、デッキプレート、有孔合板、ガルバリウム鋼板という数種類の素材のみで構成された建築は、巧みな断面構成も相まって、建築と躯体、仕上げ、建具、家具のヒエラルキーのない親密で心地よい

空間を生み出している。また、段状の断面は狭くなった校庭を補い、中廊下北側の教室に採光と空への眺望をもたらし、1階北側では設備スペースを生み、西側では雁行した平面となり周辺のスケールに合わせて分節された立面をつくり出している。

校庭を巡るネットの支柱はコストの点から既製の電柱を採用したとのことだが、それによってまちと馴染んだ風景となっている。厳しい与件を解くことによってもたらされた建築であるが、学校に必要な建築空間とは何かをあらためて問い直す優れた設計となっており、奨励賞に相応しい作品といえる。

(佐藤光彦)